

平成25年度 阿賀町国語部 活動報告

部長 阿部 玲子

1 研究主題 「言語の力を育てる国語科の指導」

～課題解決の学習過程を意識した言語活動の工夫を通して～

2 研究の概要

第1回・・・活動計画立案
第2回・・・授業研究指導案検討会
第3回・・・授業研究

授業者：阿賀町立三川小学校 河村 崇 教諭

单元名：伝記を読んで自分の生き方について考えよう

教材名「百年後のふるさとを守る」(光村図書5年)

第4回・・・講話「言語の力を育てる国語科の指導」

講師：五泉市教育委員会 指導主事 新田見 誠 様

教育課程伝達講習

第5回・・・国語部情報交換会

3 研究の実際

(1) 授業研究より

本時のねらいは、「伝記には物語的表現(会話や心情の説明)と説明的表現(解説や評価)が使われていることが分かり、それぞれの表現の特徴と効果について理解することができる」であった。



授業者が教材文から選んだ4つの文章はねらいに即しており、提示方法も視覚に訴えるよう工夫されていた。子どもたちは、会話文の有無や文末表現に着目しながら、物語的・説明的と仲間分けをすることができた。しかし、それぞれの表現の効果を理解するまでには至らずさらなる手だてを要する。

子どもたちは、長い教材文を読み込んでおり、意欲的に学習していた。学級の実態に配慮しながら活動を組み、読みの力を育てることを試みた提案性のある授業であった。

(2) 講話より

五泉市教育委員会の新田見誠指導主事を講師にお招きし、講話をお聞きした。

前半は、参加者が演習として「連詩」に挑戦し、活動の実際を体験したり、指導事項を確認したりした。

後半は、新聞記事を使った実践を紹介していただいた。「①拡大写真の提示→②見出しを消した記事の提示→③要約→④感想を書く→⑤話して伝える」という流れの開発单元であった。

「子どもたちにこんな力を」という思いを教師がしっかりともち、そして、年間を見通し、計画的に言語活動を組織することが大切であるとのこと指導を受けた。

4 成果と課題

授業研究、講話、情報交換会は、いずれも日々の実践に生かすことのできる有意義な研修となった。「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」をうまく関連付けながら、言語の力を育てていくことが重要である。目の前の子どもたちに合った言語活動、子どもたちが学ぶ喜びや楽しさを感じながら確実に力を付けられるような言語活動を構想していく必要性を感じた。